



平成27年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月4日

上場取引所 東

上場会社名 アース製薬株式会社

コード番号 4985 URL <http://www.earth-chem.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川端 克宜

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営統括部統括部長 (氏名) 三枚堂 正悟

TEL 03-5207-7458

四半期報告書提出予定日 平成27年11月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年12月期第3四半期の連結業績(平成27年1月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第3四半期	132,610	11.3	12,248	△8.7	12,471	△11.7	7,144	△7.6
26年12月期第3四半期	119,132	4.8	13,421	0.2	14,126	0.5	7,732	△3.0

(注) 包括利益 27年12月期第3四半期 7,852百万円 (△5.0%) 26年12月期第3四半期 8,264百万円 (△9.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第3四半期	353.74	—
26年12月期第3四半期	382.85	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年12月期第3四半期	118,121	55,100	41.9
26年12月期	101,598	49,580	43.6

(参考) 自己資本 27年12月期第3四半期 49,481百万円 26年12月期 44,287百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	—	0.00	—	110.00	110.00
27年12月期	—	0.00	—	—	—
27年12月期(予想)	—	—	—	110.00	110.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年12月期の連結業績予想(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	165,091	13.2	6,268	29.4	6,738	11.9	2,629	54.1	130.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 5「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年12月期3Q	20,200,000 株	26年12月期	20,200,000 株
② 期末自己株式数	27年12月期3Q	4,177 株	26年12月期	4,017 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年12月期3Q	20,195,893 株	26年12月期3Q	20,196,069 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益が改善傾向にあり、個人消費も総じてみれば底堅く推移しておりましたが、中国をはじめとするアジア地域の景気下振れリスクなどを背景に株式市場が乱高下するなど、景気の先行きには不透明感が残る状況でありました。

このような経済状況のなか、当社グループは「ベストクオリティで世界と共生」の理念のもと、「お客様目線」に立ち“お客様の満足感・信頼感を高める”経営を行い、成長力と収益力を高めるため、お客様のニーズに合う製品・サービスの開発・提供、園芸用品の展開強化、海外販売の拡充に向けた体制の整備、コスト低減活動について重点的に取り組みました。さらには、白元アース㈱の早期黒字化に向けた課題の解決に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間における売上高は、前第4四半期連結会計期間より連結業績に取り込んだ白元アース㈱の売上が加わったこともあり、1,326億10百万円(前年同期比11.3%増)となりました。一方、利益については、売上構成比の変化による原価率の上昇や経費の増加等が要因で、営業利益122億48百万円(前年同期比8.7%減)、経常利益124億71百万円(前年同期比11.7%減)、四半期純利益71億44百万円(前年同期比7.6%減)と減益となりました。

なお、当社グループは殺虫剤の売上構成比が高く、売上高が3月～7月に偏るといった季節性がある一方、人件費等の固定費は年間を通じてほぼ均等に発生するため、四半期毎の売上高や利益には相応の影響があります。

(参考) 白元アース㈱の当第3四半期(1月～9月)業績

(単位:百万円)

売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
11,471	△72	△86	42

※ 前期は第4四半期連結会計期間より計上

セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

[家庭用品事業]

家庭用品事業におきましては、消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の影響は一段落したものの、夏場の天候不順の影響を受ける厳しい状況でありました。

このような状況のなか、当社は新製品の発売や製品リニューアルの実施、殺虫剤の早期展開、販売促進費や広告宣伝費の積極投入などにより、市場の活性化と売上・利益の拡大に努めました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当事業の売上高は1,219億10百万円(前年同期比10.9%増)となりましたが、売上構成比の変化による原価率の上昇や経費の増加等が影響し、セグメント利益(営業利益)は105億21百万円(前年同期比14.3%減)となりました。

(家庭用品事業の業績)

(単位:百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額	増減率
殺虫剤部門	55,901	56,297	396	0.7%
日用品部門	48,362	59,391	11,029	22.8%
口腔衛生用品	24,152	25,178	1,025	4.2%
入浴剤	11,043	12,710	1,666	15.1%
その他日用品	13,166	21,503	8,337	63.3%
ペット用品・その他部門	5,691	6,221	529	9.3%
売上高合計	109,954	121,910	11,955	10.9%
セグメント利益(営業利益)	12,277	10,521	△1,755	△14.3%

(注) 売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高が含まれており、金額は前第3四半期連結累計期間では5,091百万円、当第3四半期連結累計期間では5,045百万円です。

部門別の主な状況は次のとおりであります。

殺虫剤部門

殺虫剤部門においては、当社を含む大手4社が販売した吊り下げ虫よけの商品パッケージに関する消費者庁関連報道の影響で同カテゴリーの市場が縮小したことや、消化の最盛期である夏場の天候不順が影響したほか、前年8月に国内で感染が確認されたデング熱に対する特需の反動もあり、市場は前期を下回りました。一方、当社の市場シェア(自社推計)は56.9%(前年同期比2.9ポイント増)と拡大しました。

このような状況のなか、液体蚊とり『アースノーマット』や吊り下げ虫よけ『バボナ虫よけネットW』は前期を下回りましたが、ゴキブリ用、不快害虫用殺虫剤の売上が伸長したことに加え、園芸用品において除草剤(非農耕地用)『おうちの草コロリ』の売上増もあったことで、当部門の売上高は562億97百万円(前年同期比0.7%増)となりました。

日用品部門

口腔衛生用品分野においては、洗口液『モンダミン』が大容量タイプを中心に売上が伸びたことに加え、新製品『モンダミン プレミアムケア』の寄与により堅調に推移しました。また、知覚過敏予防ハミガキ『シュミテクト』が大幅な売上増となったことで、売上高は251億78百万円(前年同期比4.2%増)となりました。

入浴剤分野においては、『バスクリン』や『きき湯』が前期を下回りましたが、『バスロマン』が売上が伸びました。また、白元アース㈱の売上が加わり、さらに今秋発売の新製品が上乘せされたことで、売上高は127億100百万円(前年同期比15.1%増)となりました。

その他日用品分野においては、消臭芳香剤やエアコン洗浄剤が前期を下回りましたが、衣類用防虫剤『ミセスロイド』やマスク『快適ガードプロ』など白元アース㈱の売上が加わったことで、売上高は215億3百万円(前年同期比63.3%増)となりました。

以上の結果、当部門全体の売上高は593億91百万円(前年同期比22.8%増)となりました。

ペット用品・その他部門

ペット用品・その他部門においては、売上高は62億21百万円(前年同期比9.3%増)となりました。

[総合環境衛生事業]

総合環境衛生事業におきましては、主要な顧客層である食品関連工場、医薬品・化粧品関連工場、包材関連工場が、原料やエネルギーコスト高、工場の統廃合などを背景にコスト削減への動きを強くする一方で、昨今の食品の異物混入事件や事故の発生により「安全・安心」に対する意識はさらに高まり、当事業が提供する高品質の衛生管理サービスへのニーズが高まる状況でありました。

このような状況のなか、当社は引き続き技術開発力の強化を図り、差別化された品質保証サービスの開発に努めるとともに、お客様のニーズに速やかに対応できる社内体制やネットワークシステムの構築、人材の育成などに努め、契約の維持・拡大を図りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当事業の売上高は158億22百万円(前年同期比10.0%増)、セグメント利益(営業利益)は15億6百万円(前年同期比9.3%増)となりました。

(総合環境衛生事業の業績)

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額	増減率
売上高	14,383	15,822	1,439	10.0%
セグメント利益(営業利益)	1,378	1,506	127	9.3%

(注) 売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高が含まれており、金額は前第3四半期連結累計期間では114百万円、当第3四半期連結累計期間では77百万円です。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間における総資産は、前連結会計年度末に比べて165億23百万円増加し、1,181億21百万円となりました。これは主に、現金及び預金、売上債権、有価証券が増加したことなどによるものです。

当第3四半期連結会計期間における負債は、前連結会計年度末に比べて110億3百万円増加し、630億21百万円となりました。これは主に、仕入債務、借入金、未払法人税、返品調整引当金が増加したことなどによるものです。

当第3四半期連結会計期間における純資産は、前連結会計年度末に比べて55億20百万円増加し、551億円となりました。これは主に、利益剰余金が増加したことによるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べて1.7ポイント低下し、41.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月10日に公表した通期の業績予想に変更はありません。

なお、本業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、様々な要因の変化により実際の業績とは大きく異なる場合があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日公表分。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から、退職給付の支払見込期間ごとに設定された複数の割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る資産が29百万円増加、退職給付に係る負債が193百万円減少し、利益剰余金が119百万円増加しております。また、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,526	14,590
受取手形及び売掛金	17,486	20,820
有価証券	100	10,099
商品及び製品	16,714	17,907
仕掛品	897	643
原材料及び貯蔵品	4,616	4,056
繰延税金資産	1,582	2,575
その他	2,575	1,851
貸倒引当金	△244	△252
流動資産合計	56,255	72,292
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	21,999	21,995
減価償却累計額及び減損損失累計額	△11,182	△11,598
建物及び構築物(純額)	10,816	10,396
機械装置及び運搬具	10,133	10,506
減価償却累計額	△7,986	△8,263
機械装置及び運搬具(純額)	2,146	2,242
土地	8,366	8,217
リース資産	537	534
減価償却累計額	△49	△133
リース資産(純額)	488	401
建設仮勘定	1,049	1,961
その他	6,421	6,950
減価償却累計額	△5,410	△5,780
その他(純額)	1,010	1,169
有形固定資産合計	23,879	24,389
無形固定資産		
のれん	13,710	12,279
リース資産	0	28
その他	739	833
無形固定資産合計	14,450	13,141
投資その他の資産		
投資有価証券	3,339	4,044
退職給付に係る資産	2,855	3,501
繰延税金資産	139	41
その他	686	717
貸倒引当金	△7	△6
投資その他の資産合計	7,013	8,298
固定資産合計	45,343	45,829
資産合計	101,598	118,121

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	24,394	26,159
短期借入金	2,240	3,091
1年内返済予定の長期借入金	2,206	2,726
未払金	6,027	5,845
未払法人税等	1,116	4,584
未払消費税等	770	1,305
賞与引当金	422	1,239
返品調整引当金	726	3,097
その他	3,404	2,485
流動負債合計	41,309	50,534
固定負債		
長期借入金	7,006	8,807
繰延税金負債	1,056	1,355
役員退職慰労引当金	125	137
退職給付に係る負債	897	659
資産除去債務	449	424
その他	1,173	1,102
固定負債合計	10,708	12,486
負債合計	52,017	63,021
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,377	3,377
資本剰余金	3,168	3,168
利益剰余金	35,377	40,420
自己株式	△11	△12
株主資本合計	41,912	46,953
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	663	1,007
為替換算調整勘定	928	763
退職給付に係る調整累計額	782	756
その他の包括利益累計額合計	2,374	2,527
少数株主持分	5,293	5,619
純資産合計	49,580	55,100
負債純資産合計	101,598	118,121

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
売上高	119,132	132,610
売上原価	71,584	81,062
売上総利益	47,548	51,547
販売費及び一般管理費		
運送費及び保管費	3,211	3,954
広告宣伝費	6,556	7,124
販売促進費	4,660	6,350
貸倒引当金繰入額	5	8
給料及び手当	7,535	8,595
賞与引当金繰入額	824	902
役員退職慰労引当金繰入額	13	11
旅費及び交通費	1,084	1,220
減価償却費	320	393
のれん償却額	1,270	1,431
地代家賃	626	685
研究開発費	1,583	1,725
その他	6,432	6,895
販売費及び一般管理費合計	34,126	39,299
営業利益	13,421	12,248
営業外収益		
受取利息	8	11
受取配当金	24	31
為替差益	165	-
受取ロイヤリティー	149	50
受取手数料	133	35
受取家賃	82	116
その他	184	215
営業外収益合計	747	461
営業外費用		
支払利息	30	64
為替差損	-	137
減価償却費	-	20
たな卸資産廃棄損	3	0
その他	8	15
営業外費用合計	42	238
経常利益	14,126	12,471

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
特別利益		
固定資産売却益	2	138
投資有価証券売却益	14	11
特別利益合計	16	149
特別損失		
固定資産売却損	0	7
固定資産除却損	104	11
投資有価証券評価損	-	3
事務所移転費用	44	-
厚生年金基金脱退損失	144	-
特別損失合計	294	22
税金等調整前四半期純利益	13,848	12,598
法人税、住民税及び事業税	6,034	5,606
法人税等調整額	△372	△704
法人税等合計	5,662	4,901
少数株主損益調整前四半期純利益	8,186	7,696
少数株主利益	454	552
四半期純利益	7,732	7,144

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	8,186	7,696
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△24	352
為替換算調整勘定	102	△164
退職給付に係る調整額	-	△32
その他の包括利益合計	78	155
四半期包括利益	8,264	7,852
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,819	7,296
少数株主に係る四半期包括利益	445	555

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	家庭用品事業	総合環境 衛生事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	104,863	14,268	119,132	—	119,132
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,091	114	5,205	△5,205	—
計	109,954	14,383	124,338	△5,205	119,132
セグメント利益	12,277	1,378	13,655	△233	13,421

(注) 1. セグメント利益の調整額△233百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度の末日に比して、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントごとの資産の金額が著しく変動しております。その概要は、以下のとおりです。

当第3四半期連結会計期間より、新たに設立した白元アース(株)を連結の範囲に含めたことに伴い、同社の資産を「家庭用品事業」セグメントに計上いたしました。

なお、前連結会計年度末に比べて増加した「家庭用品事業」セグメントの資産の金額は、当第3四半期連結会計期間においては23,645百万円であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間より、新たに設立した白元アース(株)を通じて、(株)白元の有する事業の一部を譲り受け、白元アース(株)を連結の範囲に含めました。これに伴い、「家庭用品事業」セグメントにおけるのれんの金額が増加しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては1,499百万円であります。また、のれんの金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算出された金額であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成27年1月1日 至 平成27年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	家庭用品事業	総合環境 衛生事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	116,864	15,745	132,610	—	132,610
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,045	77	5,123	△5,123	—
計	121,910	15,822	137,733	△5,123	132,610
セグメント利益	10,521	1,506	12,028	220	12,248

(注) 1. セグメント利益の調整額220百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。